



No. 568 号

令和7年（2025年）12月25日
<https://www.maedachuo-e.sapporo-c.ed.jp>

「言葉の力」を育てていく

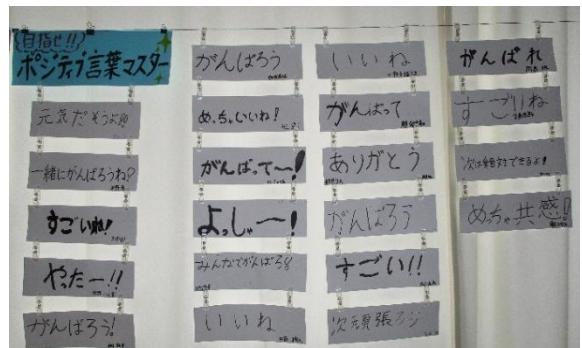
学校長

2学期の終わりを迎え、子どもたちの成長をあらためて実感する日々です。保護者の皆様には、日頃より温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

この2学期、子どもたちの成長を見守る中で、特に「**言葉の力**」を強く感じる場面が多くありました。友達を励ますひとこと、授業中に相手の意見を受け止めて返すひとこと、そして「ありがとう」「ごめんね」といった素直な言葉——それらは、子どもたちの関係を深め、学級の雰囲気を温かいものにしてくれました。

時には、思わず強い言い方になってしまふことや、よくない表現になってしまふことがあります。しかし、そこから気付いて言い換えたり、相手に伝わるように話合いを続けたりする姿が見られるようになりました。私たち教職員も、「気持ちを言葉で伝えよう」「相手に伝わるように話してみよう」など、粘り強く子どもたちに伝える努力をこれまで重ねてきています。子どもたちは、言葉が人を傷付けることもあるけれど、それを経験を通して学んでいます。

先日、あるクラスを訪れた際、子どもたちが“ポジティブ言葉”を出し合って教室に掲示している様子がありました。「いいね!」「一緒にがんばろう!」など、うれしいことは言葉で伝えようという一つ一つの言葉に、子どもたちの思いが込められていました。友達のよいところを見付け、それを言葉にして伝えようとする姿勢が、教室全体を明るく温かい雰囲気にしているのを感じました。



言葉は目に見えませんが、確かに相手の心に届きます。だからこそ、丁寧に使おうとする気持ちが、子どもたちの成長につながっていくのだと思います。子どもたちが自信をもつ

て活動できる環境を「**言葉の力**」という視点からつくっていく——これは、周りの大人们も心掛けていくことなのかなと思います。冬休みにはご家庭の中で、是非子どもたちが優しい言葉や相手を思いやる言葉に出会えるよう、温かい会話の時間をもっていただければ幸いです。

子どもたちが**「言葉の力」**を付けて、相手を思いやり、前向きな言葉を自分から届けられるよう、3学期も共に育んで参りたいと思います。

